

2020/01/07 (火)

1月始業礼拝

聖書 マルコによる福音書 12章 28-34節 (新約聖書 87頁)

28 彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」29 イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。30 心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』31 第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」32 律法学者はイエスに言った。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃったのは、本当です。33 そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。」34 イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われた。もはや、あえて質問する者はなかった。

明日という日がある

2020年、新しい年を迎えました。この一年も、英和生皆さんが神様の祝福の下に成長されますようにとお祈りしています。さて、皆さんはこの冬休みはいかが過ごされたでしょうか。

私はある長編映画を観て、主人公の“Tomorrow is another day”という言葉が印象に残りました。字幕には「明日という日がある」とありました。私は主人公が今の自分を受け入れ、たくましく明日を信じている姿に心打たれました。

「隣人を自分のように愛する」ことはとても大切なことです。でも、それを言葉で説明しようとすれば、どんなに美しい言葉で伝えても伝え尽くせるものではありません。また行動であらわそうとすると周囲の目に恥じ

らいを感じたり、自分のプライドが邪魔をして素直になれず心にもないことを言ったり、冷たくして後悔することもあります。

律法学者はどの掟が一番大切でしょうかとイエス様に尋ねました。イエス様は神様を愛すること、そして隣人を自分のように愛することと答えられました。すると律法学者もその通りですと言いました。するとイエス様は律法学者に「あなたは、神の国から遠くない」と言われました。お話はそれで終わっています。イエス様は律法学者に問いかけて終わっています。そして律法学者もそれ以上何も言わずに終わっています。隣人を自分のように愛するのは言葉で説明し、理解することではないのでしょうか。

私たちは過去に戻って、自分が隣人に言ったこと、したことを取り消すことはできません。でも、私たちはどんな時にも明日という日に向かっていきます。新しい一日が与えられています。それはすべての人に与えられている神様からの赦しではないでしょうか。神様の恵みではないでしょうか。神様がどんな日にも、どんな時にも共にいて下さり、明日という日に向かって導いて下さっています。新しい年も一日一日を大切に、神様の恵みと導きの下に過ごして参りましょう。

(しばらく黙祷しましょう)

祈禱 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

新しい年を迎え、静岡英和女学院は今日ここに1月始業の時を迎えることができました。心より感謝いたします。どうかこの一年もすべてをあなたに委ね、あなたの赦しと導きの下、互いに慈しみ、励ましあい歩ませて下さい。

主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン